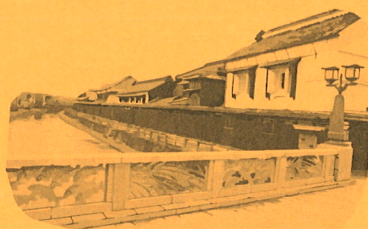


# 吹奏太郎



Ajisai

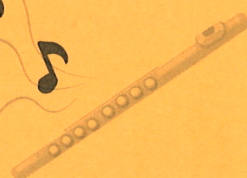


Kuranomachi



栃木市マスコットキャラクターとち介

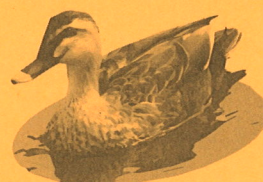
Tochigi



Budou



Watarase



Kamo

## 目 次

★巻頭言 .....	1
「架け橋になることを目指して」	栃木県吹奏楽連盟副理事長 津村 宏
★1 吹奏楽部活動指導者認定講習会に参加しての感想 .....	2
	高橋 萌
★2 第47回全日本アンサンブルコンテストに参加しての感想 .....	2
中学校の部	宇都宮市立宮の原中学校 品田 亜希
高等学校の部	作新学院高等学校 栗田 百逢
★3 第66回栃木県吹奏楽コンクールに参加しての感想 .....	3
小学生の部	矢板市立矢板小学校 村上 陽一
//	栃木市立栃木第三小学校 若林優香子
中学生の部A部門	宇都宮市立豊郷中学校 藤内 美咲
// B部門	宇都宮市立陽北中学校 安久沢月葉
高校生の部A部門	宇都宮短期大学附属高等学校 相良 和奏
// B部門	幸福の科学学園高等学校 小林 隆純
大学の部	白鷗大学ウインドオーケストラ部 小林 夏梨
職場・一般の部	真岡ウインドオーケストラ 小田 克明
//	ファミリープラスバンドマムソウル 石井百合子
★編集後記 .....	8
	栃木県吹奏楽連盟広報部 今泉 剛

## 「架け橋になることを目指して」

栃木県吹奏楽連盟副理事長 津村 宏

とちぎの吹奏楽は熱い。

栃木県の所属する東関東吹奏楽連盟の中では、栃木県の吹奏楽連盟加盟団体数とその所属人数が最も少なく、コンクール等での勢いも他県に押され気味だなあと感じるのが時折あるのは確かです。しかし、その音楽にかける情熱は、人数の大小にかかわらず、私立公立を問わず、小学生から社会人に至るまで、他のどの県にも負けることはないとも感じています。

コロナ禍をきっかけに、小中学校におけるクラブ活動が大きく姿を変えてしまったのは記憶に新しいところです。これに合わせるかのように、教員の働き方改革の一環として、部活動の時間制限が一気に加速しました。子どもたちが音楽と出会い、実際に楽器に触れ、練習し成果を披露するという時間が大いに減ってしまっているのが現状であり、特に公立学校においては、以前のように潤沢な活動時間が復活する気配は余り感じられません。部活動の地域移行についても、指導していただく、受け皿となる地域人材がなかなか確保できないという実情や、音頭をとるはずの行政の予算も削減され、部活動の地域移行自体これからどうなっていくのか、情報がなかなか入手できません。

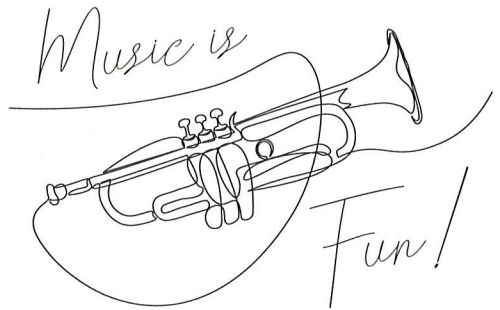
さて、私とは言えば、音楽と出会い、その楽しさに浸り、小学生では鼓笛隊を、中学高校ではトランペットを吹きました。練習が終わり、誰もいなくなった音楽室で一人ラッパを吹きながら、ひたすら練習に明け暮れる毎日は、楽器を演奏することがただただ楽しかった時代でした。大学で一度挫折し、しばらくは音楽と離れた生活を送りましたが、いつかトランペットを吹きたいとずっと思っていました。そんなとき、母校の恩師が退職するのをきっかけに立ち上がった社会人バンドに参加したのが教員5年目くらいでした。プレーヤーとして音楽に携わることで、学生時代の忘れ物を取り戻そうとしていたのかもしれない。

縁あって、プレーヤーとしても吹奏楽部顧問としても大した実績のない私が、吹奏楽連盟のお手伝いをさせていただくようになって12年ほどが経ちました。この間、「演奏する側ではなく、演奏する人たちを支える側にまわる」という視点をもつことができるようになり、生徒に対する私の指導の仕方にも変化が現れるようになりました。連盟の仕事を通して、私自身が指導者として成長するきっかけをいただけたのだと思います。

現在の私は、栃木県内の吹奏楽に携わる人たちを様々な面で繋ぐきっかけを作りたいと考えています。町内会のお祭りや何かのイベントで学生や社会人バンドの演奏を聞き、音楽に触れた子どもたちが目を輝かせて「音楽って楽しい」と感じ、その子が学生時代に吹奏楽と出会い、やがて社会人となり…。学生で始めた吹奏楽を、社会人になっても続けていける環境があるという好循環こそが、これからの栃木県の吹奏楽の発展につながるのではないかと、ちょっとだけ生意気な意見もっています。連盟に加盟している、いないにかかわらず、県内には素晴らしい社会人バンドが、幸いにも数多く存在します。それらのバンドと学生たちとの接点を少しでも増やす機会を生み出していくことが、連盟に携わる私の役割だと思うのです。

とちぎの吹奏楽は熱い。

私はもうしばらくの間、会議室とステージ上で、架け橋としてお手伝いをさせていただくつもりです。



## 1 吹奏楽部活動指導者認定講習会に参加しての感想

令和6年2月11日（日・祝） 会場：宇都宮市文化会館

### 「吹奏楽部活動指導員認定講習を受講して…」

高橋 萌

2月11日（日・祝）に宇都宮市文化会館で吹奏楽部活動指導者認定講習を受講してきました。講義は、実際にモデルバンド（作新学院高校・宇都宮中央高校 吹奏楽部のみなさん）での実践や演奏を交えた内容でした。指揮法や音楽理論、編曲法など基本的な知識から、それらを活かした指導の工夫まで学ぶことができ、実技測定では実際にモデルバンドで行進曲「雷神」（スーザ作曲）の指揮を振りました。実技測定の講師は市立柏高校で指導されていた石田修一先生だったのですが、学生の頃から憧れていた先生の前で指揮を振ることになり、緊張と嬉しさで終始ドキドキしてしまいました。先生方の講義はどれも楽しく、勉強になることばかりで時間があっという間でした。大学で勉強した、指導の経験がある、といった経験則だけでは子供たちへの指導は成り立たないのだと改めて実感しました。学校から地域へ部活動の指導体制が移行していくなかで、吹奏楽部はどうあるべきなのか。今回の講習で学んだこと、感じたことはこれからの指導の中でヒントになるものばかりでした。子供たちに吹奏楽を好きになってもらいたい。音楽に触れて豊かな人生を歩んでもらいたい。指導員として、この気持ちを忘れず、これから指導に励んでいきたいと思えます。

## 2 第47回全日本アンサンブルコンテストに参加しての感想

令和6年3月20日（水・祝） 会場：高崎芸術劇場（群馬県）

### 「大切な仲間」

宇都宮市立宮の原中学校

部長 2年（※当時） 品田 亜希

私たちは、初めて全日本アンサンブルコンテストという大舞台で演奏させていただきました。リヴィエ作曲の「グラヴェとプレスト」という難曲に挑戦しました。東関東アンサンブルコンテストでの結果発表、私はまたこのメンバーで演奏したいと心から願っていました。「宮の原中学校サクソ4重奏」と言われたとき、嬉しい以上の感情と、更に素敵な音楽をしたいという思いがありました。練習の中で、笑いながら楽しく練習をする日もあれば、悔しくて泣きそうになりながら練習をする日もありました。私は、思うように楽器に音が表れなかったり、本当に自分がこう表現したいと思う音楽ができないときがありました。そんな中でも、3人の仲間は、一緒に頑張ろうとたくさんの言葉をくれました。自分より100倍努力する一生懸命な3人の仲間を見て、私ももっと頑張ろうと思えました。この3人の仲間には数え切れないほど助けられてきたし、支えられてきました。そんな仲間と、全日本アンサンブルコンテストという大きな舞台で演奏させていただくということが、すごく嬉しかったです。本番では、緊張という不安は全く無く、この曲の良さを一人でも多くの方に届けられたら良いなと思いながら演奏しました。「グラヴェとプレスト」という素敵な曲に巡り会えたこと、そして半年間大好きな仲間と演奏できたこと、私にとって一生の宝物です。



### 「全日本アンサンブルコンテストを終えて」

作新学院高等学校 2年（※当時） 栗田 百逢

私たち作新学院高等学校吹奏楽部は、第29回東関東アンサンブルコンテストに出場し、木管8重奏が銀

賞、木管6重奏が金賞を受賞しました。木管6重奏は東関東代表として第47回全日本アンサンブルコンテストに推薦していただくことができました。まさか自分たちが代表になるとは思ってもおらず、表彰式では声が出ないほどびっぴりしたのを鮮明に覚えています。栃木勢としては25年ぶりの代表と憧れ続けてきた全日本の舞台上で演奏できる喜びがある中、それと同じくらい緊張や不安、プレッシャーもありましたが、メンバーが仲良く、毎日の練習で新しい発見の連続に楽しみながら全日本アンサンブルコンテスト当日を迎えることができました。演奏前のアナウンスで「東関東代表作新学院高等学校」を聞いて気が引き締め、ステージでは普段の練習通り6人で笑みを交わし、3ヶ月間に渡る私たちの集大成を披露しました。結果は銀賞でしたが、私たちの全てが詰まった演奏をすることができました。



全日本アンサンブルコンテストにはいつも憧れの眼差しで見つめていた常連校も出場していました。近くで触れ合うことにより、手の届かない存在ではなく私たちと同じ高校生であることを実感しました。今度は吹奏楽の編成で更なる高みを目指していきたいと思います。また今年と来年は全日本吹奏楽コンクールが宇都宮市文化会館で開催されます。作新学院高等学校の皆でそのステージに上がれるよう日々努力を重ねて行きたいと思います。

出場にあたり、自分たちのことのように喜び、悔しがってくれる先生や大切な仲間たちと心から応援しサポートしてくれた家族に感謝すると共に、今後も支えてくださる全ての方々へ恩返しのできる活動をしていきたいと思っています。

### 3 第66回栃木県吹奏楽コンクールに参加しての感想

令和6年7月29日(月) 中学生の部B部門 1組 会場：宇都宮市文化会館

7月30日(火) 中学生の部B部門 2組

7月31日(水) 高校生の部B部門

8月10日(土) 中学生の部B部門代表選考会、高校生の部A部門

8月11日(日祝) 小学生の部、高校生の部C部門・D部門、大学の部、職場・一般の部

8月11日(月振休) 中学生の部A部門

## 「新たな時代への音楽の一步 ～地域と共に挑んだ第66回栃木県吹奏楽コンクール～」

矢板市立矢板小学校 指導者 村上 陽一

私たち矢板小学校吹奏楽部は、現体制になってからは2回目のコンクール参加となりました。これまで、吹奏楽部の運営は主に学校の教員によって行われていましたが、昨年度より地域移行という新たな挑戦のもと、保護者や外部講師が中心となって運営する形での初めての参加となりました。この栃木県吹奏楽コンクールに参加することは、私たちにとって大きな転機であり、かけがえのない経験となりました。

初めは戸惑いと不安が大きく、練習場所の確保、楽器の運搬、そして練習計画をどう進めるかという課題に直面しました。普段練習をしている音楽室にはエアコンがないため、夏場の練習場所の確保は容易ではなく、保護者の皆さんの協力を得ながら楽器運搬のスケジュール調整に追われる日々が続きました。その楽器の運搬も思った以上に大変です。特に大きな楽器の移動は小学生だけでは厳しい状況もあり、多くの保護者の皆様が協力してくださいました。限られた練習時間の中で、どうやって子どもたちの力を最大限に引き出すか、練習計画の立案にも多くの試行錯誤がありました。

そんな中でも、子どもたちは一生懸命取り組み、私たち大人もその姿に支えられて困難を乗り越えてきました。新しい指導体制に戸惑いながらも、音楽を通じて子どもたちが少しずつ成長していく様子を目にすることは、私たちにとっても大きな喜びでした。

私たちがこのように運営を進める中で感じたのは、少子化が進む中、今までとは異なる価値観で吹奏楽部の運営やコンクールへの参加の仕方を見直す必要があるということです。従来のように学校が中心となる形では、今後の持続可能性がますます厳しくなる可能性があります。地域の協力や外部の支援を積極的に取り入れ、子どもたちがより多様な形で音楽に触れ、成長できるような仕組みを考えなければならない時代に差し掛かっています。

このコンクールは、ただ技術を競う場であるだけでなく、音楽を通して地域と子どもたちがつながり、共に成長する機会となりました。これからの吹奏楽の在り方を再考し、新たな価値を見出していくことが、未来の子どもたちのためにも重要だと強く感じています。私たちは、地域と共に音楽を育てるという新たな視点を大切にしながら、これからも子どもたちの成長を支えていきたいと思えます。

## 「吹奏楽コンクールに参加して」

栃木市立栃木第三小学校 6年 トランペットパートリーダー 若林 優香子

6年生となり、初めての大会となる吹奏楽コンクール。今年は、6年生全員で曲を聴き、みんなで話し合って曲を決めました。「ケルト民謡による組曲」は、明るい踊りのイメージから、穏やかな優しい風が吹くような曲、そして迫力ある激しくリズムカルな曲へと変わっていきます。

練習が始まると、音の高さや曲の縦がなかなか合わず、苦戦しました。私の担当するトランペットは、メロディーが多く、楽章によってイメージを変えることがとても難しかったです。夏休みも、パート練習をたくさん行い、みんなで合わせられるように練習しました。

コンクール当日は、朝から緊張していました。本番では、緊張もありましたが、みんなで楽しく演奏できるように頑張りました。演奏が終わったあとは、やりきった思いでいっぱいになりました。後輩たちも、ステージでの演奏が楽しかったと言っていました。

東関東大会への推薦をいただき、次のステップへの目標ができました。9月15日に行われた東関東大会では、みなとみらいホールで、私たちの思いが詰まった演奏で、会場を響かせることができました。6年生にとっても、とてもいい思い出になりました。

これからも、音楽を楽しみながら、頑張っていきたいです。

## 「笑顔でね」

宇都宮市立豊郷中学校  
部長 3年 藤内 美咲

緊張しながら立った舞台の上で、顧問の外館先生が言ったこの言葉がとても印象に残っています。この言葉のお陰で、私たちは楽しんで演奏することができ、金賞をいただくことができました。

私たち豊郷中学校吹奏楽部は、個性があふれ、いつも仲良しな計49名で活動してきました。「東関東大会出場!」という目標を掲げ、決めたスローガンは「万里一空～音で繋げる勇気と復興～」です。万里一空とは、一つの目標に向けて精一杯努力する、という意味があり、～音で繋げる勇気と復興～は、今年度の課題曲と自由曲にちなんで作られました。

今年度の自由曲は難易度が高く、練習を始めたときはとても苦戦しました。しかし、他校との合同練習で刺



激を受けたり、外部の先生に指導していただいたり、そして、顧問の外館先生、赤石先生の的確な指導によって私たちは日々進歩していきました。自分たちでも毎週目標を立てたり、録音した演奏を聴いて改善点を見つけていたりしました。コンクールが近づくにつれ集中力が高まり演奏が良くなっていくのを実感しました。

コンクール当日、緊張と不安が入り交じった気持ちで舞台に立ちました。しかし、先生の言葉もあり「笑顔で、そして遠くに届けよう。」と思うことができました。課題曲は本当に楽しく、笑顔で演奏することができ、自由曲はホルンの響きを感じながら演奏することができました。結果としては、目標としていた東関東大会にはあと一步のところで届きませんでしたが、今まで行ってきたことは必ず自分たちの糧になると思います。最後のコンクールで金賞という結果を残せたことを嬉しく思い、後輩たちに来年を託します。

最後になりますが、部長として部活動に携われて良かったです。努力し合いながら音を奏でた部員のみんな、支えてくださった保護者の皆様、そして先生方に心からの感謝を伝えます。本当にありがとうございました。

## 「吹奏楽コンクールを終えて」

宇都宮市立陽北中学校 部長 3年 安久沢 月葉

私たちの夏を一言で表すと「青春」です。

今年度、演奏した「復興」は昨年度よりも難易度の高い曲でした。木管楽器の連符、金管楽器の連続ハイトーン、打楽器の複雑なリズムの数々。この分厚い壁に立ち向かって技術と表現力を高めるために精一杯努力しました。

コンクール当日、各団体の素晴らしい演奏に圧倒され、不安や緊張に徐々に押し潰されそうになりました。しかし、ここまで積み重ねてきた努力や仲間との絆を信じ、本番に臨みました。

演奏中は、ステージに立つ楽しさや喜び感をかみしめながら、最初から最後の音まで全力で演奏することができました。演奏終了後の私達は達成感に満ちあふれていました。

そして、いよいよ結果発表の時。

「二十番、宇都宮市立陽北中学校…ゴールド金賞」この言葉を聞いた瞬間、今日まで仲間と切磋琢磨して練習してきたことが思い出され、私は涙が止まりませんでした。

私達の夏は、達成感と共に「青春そのもの」でした。

これまで支えてくださった顧問の先生方、講師の方々、保護者の方々、そして部員のみんなに感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました！！

## 「奏思奏愛 ひたむきな努力の日々から喜びの日へ」

宇都宮短期大学附属高等学校

部長 3年 相良 和奏

私たちは、栃木県吹奏楽コンクールで金賞を受賞し、東関東大会に出場することを目標に活動してきました。昨年は思い通りの結果を残せなかった悔しさがありましたし、私たち3年生にとって最後の夏になる、最高の演奏をして東関東大会に出場したいという想いで日々練習に励みました。

今年度の自由曲は清水大輔作曲「リグ・ヴェーダ 天地創造への賛歌」。この曲は、昨年の秋頃から練習を始めましたが、掛け合いの7連符から始まり、金管の力強いメロディーと木管の連符、美しいピッコロのソロ、それぞれの楽器が作り出す世界観を表現する力を必要とする曲でした。最初の練習では悪戦苦闘しました。そして指揮者の田淵哲也先生と学生指



揮者を中心にひたむきに努力し続けました。

コンクール当日、チューニングが終わり、ステージに上がると、またこの日が来たという気持ちから緊張しましたが、今までの成果を出し切ろう、楽しんで演奏しようと心に言い聞かせて演奏に臨みました。あつという間の12分間でした。結果は「金賞」。表彰式が終わり仲間と抱き合いました。みんなで喜びを共有することができたあの時、今でも昨日のこのように思い出します。そして東関東大会に向けて、今回よりもっと最高の演奏ができるように気を引きしめて頑張っていこうと心に誓いました。

最後に応援して下さった保護者、OBOGの皆様への感謝を忘れず、これからも感動を与えられる演奏ができるよう、いっそうの高みを目指して取り組んでいこうと思います。

## 「感謝と報恩」

### 幸福の科学学園高等学校

部長 2年 小林 隆純

私たち幸福の科学学園吹奏楽部は「El Cantare Sound～主に捧げる詩（ハーモニー）～」を理念としています。私たちは中高一貫校ですが、今年度は、初めて高校生だけでコンクールに出場するという、挑戦の年でした。17名と人数が減った分、音量よりも表現を重視し、歌心を忘れずに練習に取り組んできました。

出番直前は、休憩時間だったこともあり、部員間でのコミュニケーションがしっかりとできました。「高校3年生とまだまだ演奏したい」「悔いの残らない演奏にしよう」と互いに鼓舞し合い、最終的には「主エル・カンターレのために演奏しよう」と全員の心が一つになりました。本番が始まると、理想と現実のギャップで苦しんでいたこれまでの苦しみが、全て昇華されたように感じられ、ただただ幸福感の中で演奏することができました。感動を与える側であるはずの自分達が、会場の誰よりも感動してしまうほどでした。表彰式で、金賞代表に選ばれた時の記憶は、正直あまりありませんが、本校としては7年ぶりとなる東関東出場をとても嬉しく思います。

今回の一番の学びは、「感謝」です。会場で運営に携わってくださる方々や自分たちが知らないところで支え応援して下さる多くの方々のおかげで、当たり前のように演奏・練習できる環境が与えられているんだと気づけたとき、感謝以外出てくるものはありませんでした。「自分たちは頑張った」という達成感よりも、感謝で終えられたのが、第66回栃木県吹奏楽コンクールでした。

今後は、個々の技術を上げるために、一人ひとりが自分の音色に向き合い、部内のレベルの均一化を目指して精進していきます。そして何より、主なる神エル・カンターレへの感謝と報恩の気持ちを一層強く持ち、どこまでもエル・カンターレサウンドを探究し続けていきます。



## 「目の前のさらに向こうへ」

### 白鷗大学ウインドオーケストラ部 部長 3年 小林 夏梨

わたしたち白鷗大学ウインドオーケストラ部は、「自主運営」をモットーに、コンクールや文化祭、定期演奏会などに向けて日々活動しています。春には19名の新入生が入部し、部員総勢52名のバンドとなりました。

そんなわたしたちにとって、今年度は挑戦の年でした。

今年度は課題曲に「メルヘン」を、自由曲に「賢者の翼」を選曲しました。この2曲に決まった時、わたしは正直に言うと不安を感じてしまいました。

その理由に、先にあげたわたしたちのモットーである「自主運営」が影響しています。わたしたちは常任指揮者の先生にご指導をいただいておりますが、毎回の練習にお越しいただくわけではありません。したがって、



学生指揮者による合奏が日常の多くを占めています。そのような状況の中、テンポも拍子も目まぐるしく変わっていく課題曲を演奏しきれぬのか、大編成向けの自由曲をまとめきれぬのか、あまりにも未知数であったからです。

加えて、バランスの悪さにも悩まされていました。新入部員の大半は経験者であることから、基本的には今まで経験してきた



希望パートに入れるようにしています。自分のやりたい楽器を演奏できるようにという思いからですが、打楽器奏者が足りなかったり、木管楽器奏者が足りなかったり、という問題が生じてしまいました。

このように、不安や課題がたくさんある中のスタートでしたが、多くの方の支えを受け、工夫を凝らし、部員全員が一生懸命に練習に取り組んでくれたおかげで、無事に本番の日を迎えることができました。

栃木県吹奏楽コンクールの当日は、とても暑い1日でした。栃木県外出身の部員や、大学から吹奏楽を始めた部員にとっては宇都宮市文化会館を訪れるのは初めてであったため、会場の雰囲気にも飲まれているような姿も見受けられました。演奏中は、これまでの練習の日々が脳内を駆け巡り、上手いかなかったこと、苦しんだこと、楽しかったこと、自信がついたこと、さまざまな情景が思い出されました。最後のハーモニーが美しく鳴り響いた時、頑張ってきてよかったと、強い達成感をえました。演奏終了後は、皆がとても良い表情をしており、どこを見渡しても笑顔で溢れていました。多くの努力が報われ、大変ありがたいことに金賞を受賞することができました。

そして、9月には千葉県君津市民文化ホールにて東関東吹奏楽コンクールに出場し、銅賞を受賞しました。悔しい結果でしたが、この3年間の中で一番の手ごたえを感じた年でした。

来年以降もわたしたちの挑戦は続きます。目の前のさらに向こうへ歩いていけるよう、努力してまいります。ありがとうございました。

## 「吹奏楽コンクールに参加して」

真岡ウインドオーケストラ 団長 小田克明

第66回栃木県吹奏楽コンクールに参加し感じたことは「ここは TRAFFICS だなあ」ということ。宇都宮市文化会館の正面玄関を入るとすぐにある階段。出演する各団体が楽器を手にし集合する場所であり、コンクールのスタート地点とも言えます。そこで目にするのは、我が団員たちが多くの人と交流する姿です。演奏を聴きに来てくれた家族や友人、かつて一緒に演奏した人、他の団体に活躍している知り合い等々と言葉を交わし別れていく…年に一度、出演者や観客だけでなく運営に当たる方々や審査員の先生方含め、コンクールのこの時ならではの光景は、人と人が交わりまた通り過ぎていく TRAFFICS を連想させます。

我が真岡ウインドオーケストラは主に演奏会やイベントへの参加、幼稚園や施設からの依頼による演奏で、楽しみながら地域に貢献することを目的としています。コンクールへの参加については、団員それぞれ思うところはあるでしょう。私個人も「社会人になってから順位付けられるのはどうなの?」と疑問を抱えた時期もあります。それでも参加することが「人生の楽しみの一つ」としての経験となるなら、継続していくことにそれなりの意味があるのだろうと、今は感じます。本番当日、リハーサルを終盤に全員で合わせて拳を突き上げ掛け声をかけると「うちの団、楽しんでるなあ」と。結果として東関東吹奏楽コンクール出場という、また新たな経験をさせていただくこととなったわけですが、こんなにゆるい感じで申し訳ないな…と心のどこかで思いつつ。

社会人が趣味として音楽活動をしていく時、大切なのは家族や職場などの理解と協力です。快く送り出してくれる家族と周りの人たちに感謝しつつ、また一年、いろいろな経験をして、いろいろな曲を演奏して、この TRAFFICS で会いましょう。

## 「ママさんブラスバンドの挑戦」

ファミリーブラスバンド マムソウル

代表 石井 百合子

私たちは17年前、子育て中のお母さんが集まって当時はまだ新しかった『ママさんブラスバンド』を立ち上げました。コンセプトは『子どもを連れて練習や本番に参加できる吹奏楽団』です。

吹奏楽コンクールを見ての通り、たくさんの学生さんが吹奏楽に打ち込んでいます。私もその一人でした。しかし社会に出てみるとなかなか吹奏楽を続けることは難しく、結婚をして子どもを持った時には「もう一生楽器を吹くことはないだろうな」と思っていました。そんな人たちでもまた演奏できる環境を作りたい、子育てで孤独を感じているお母さんたちの居場所を作りたいという思いで立ち上げ、今まで約130名のメンバーが入団してくれました。

活動は『私たちのできるやり方』という思いから、月に1度ほど幼稚園などへ訪問演奏に出向いています。ママたちだからこそ子どもたちの喜ぶ曲や演出などもでき、楽しく生の音楽を聴いてもらうことで、将来音楽を楽しめる大人になってもらえたらと思いを込めて演奏しています。

そんな活動を17年続けてきましたが、時には活動の温度差もありました。もっと音楽に向き合いたい人、ただ息抜きに演奏出来ればいい人、社会人バンドではよくある課題ではないでしょうか。色々試行錯誤する中で、今回は音楽に集中したい人を集め、吹奏楽コンクールにチャレンジすることになりました。

課題曲を含め2曲をとことん追求する経験は私たちにとっては初めてのことです。今まで毎月変わる訪問演奏の曲を次々練習していくばかりでしたので、曲について深く調べたりみんなで話し合ったり高め合ったりすることはとても学びの多い練習となりました。実は月1の訪問演奏の活動も並行して続けていたので、子育てをしながら働くメンバーにとってはとても大変だったと思います。それでもみんな一生懸命に曲と向き合ってくれました。この経験を今後の活動にも生かしていければと思います。

最近では、部活動の地域移行が始まり、徐々に廃部に追い込まれて楽器を吹けなくなった子どもたちを救うべく、先日栃木県吹奏楽連盟で開催された部活動指導員の講習会にメンバーと参加し、キッズバンドを立ち上げたところです。きっと吹奏楽コンクールでは私たちのような団体は”異色”だったと思いますが、私たちのことを知ってもらって、楽器をやりたいお母さんや活動できる場所を探している子どもたちの目に留まればチャレンジした意味につながります。これからも吹奏楽が好きな人たちが続けられる環境を作っていくために挑戦を続けていきたいと思っています。



---

## 編集後記

栃木県吹奏楽連盟副理事長・広報部長 今泉 剛

令和6年に入り連盟として新しい事業を行いました。2月の吹奏楽部活動指導員認定講習の開催です。30名を超える受講者が指導員として認定を受けました。これからの関係団体におけるご指導や、今後本格的になる中学校部活動の地域連携・移行の場面でご活躍が期待されます。

演奏面ではアンサンブルコンテストとコンクールで、各団体とも素晴らしい演奏が繰り広げられました。3月の全日本アンサンブルコンテスト出場（宮の原中・作新学院高）、また7～10月のコンクールではたくさんの団体が好演を披露し上位の大会に進みました（東関東大会・東日本吹奏楽大会については次号に掲載します）。

ゴールド金賞に代表される吹奏楽の素晴らしさと、チームとして1つの音楽を作る絆の素晴らしさを今後も追い求めていきたいものです。

---

《お願い》 原稿の執筆依頼が届きましたら、お忙しいとは思いますが是非お書きいただき、期限内にお送りくださいますようお願いいたします。

